

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700472		
法人名	コンフォート有限会社		
事業所名	グループホーム楽々園		
所在地	岡山県井原市大江町4505-5		
自己評価作成日	平成29年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成29年3月23日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は中心部から南西部にあり、施設の周りは自然が多く散歩をして四季の花を眺めたり、つくし、ワラビなど取る事ができます。現在2ユニットあり、10名の利用者さんが一緒に生活しています。グループホームは認知症の方が対象ですが、長期記憶は保たれている方もおられるので、出来る事はしていただきながら共同生活をしています。またお出かけする事も多く、地域の行事に参加して馴染みの関係を作っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆったりと家庭的な雰囲気の中、職員と過ごして居る姿が窺えます。事業所の周りの環境は落ち着いて自然に囲まれ窓からは畑が望め、季節ごとの野菜を見て季節を感じることが出来ます。気候が良い日には事業所の周りを散歩し、時には山菜摘みを楽しむこともあります。また、地域と交流が続いており地域の祭りや催しに参加することが定例の行事となっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、日常生活の支援を受けながら、安心して生活ができるように、職員は理念に基づいて介護している	理念を日々の関わりに落とし込み、入居者一人ひとりに合った住みやすい環境を整えるために、入居者から信頼される関わりを目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、散歩の途中で会話をしたり、地域の中で生活ができている	地域の祭りや催しに継続して参加しており、定期的の行事として、なじみの関係づくりに繋がってきています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方に来ていただいて、認知症について話したり、介護保険について質問を受けたりして理解していただくように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表の方、民生委員、町内会長、介護保健課の方などに集まって頂き、施設の実情、取り組みについて説明をして、理解していただく様にしている	会議の出席者から随時情報を貰いながら又、行政担当者から入居者に対する質問等話し合い、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	井原市介護事業者連絡会議に参加したり、担当の市職員さんが運営推進会議に来て頂いて相談しやすい関係ができている	各担当者に分かりにくいところを訊ねるとすぐに対応してくれます。また運営推進会議に毎回参加のおり報告や要望などを話し合い協力関係を深めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会で勉強している居室、玄関に鍵をかける事はしていない	虐待を含め身体拘束の勉強会を外部講師により行い、職員の言葉かけが優しく丸くなるなどの効果も見られ、具体的な行為の理解に努めながらケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回講師に来てもらい、社内研修をして、職員に周知できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方がおられないので、職員は理解できていない人が多いので、これから勉強します		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時に、本人、家族に十分説明を行い理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人、家族の方に意見、要望など直接聞いたり、意見箱を設置している	家族には毎月担当者が入居者の近況を伝え、情報交換を行って運営に反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議をして、職員の意見、要望を聞くようにしている	代表者も一緒に現場に出ているので職員は、直接代表者に意見等を伝えています。全体会議には職員全員参加して行っています。	全職員の研修参加を積極的に行い、職員一人ひとりが向上心を持って意見が出せるよう、スキルアップの取り組みに期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる事は整備するようになっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議で個々のケアについて話し合いをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡会議に参加し、他のサービス事業者と連携をとり、情報収集している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と家族に面談し、思いや要望を聞き馴染みの関係になるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんに面談し、思いや要望を聞きながら不安を解消して、安心していただけるようにする		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談し、必要なサービスを計画し説明、確認をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として協力しながら、できることを増やし、安心して生活が送れるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方と信頼関係を築きながら、一緒に共有して本人を支えていくように心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、近所の方などが来られたときは、居室でゆっくり話ができるようにしている	家族と入居者の良好な関係がいつまでも続くよう配慮し、職員は入居者と家族がゆっくり過ごせる場所と時間を提供しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内で利用者同士や職員と共に会話をしたり、手作業をして支えあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談に来られれば、相談に応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の話の中で、本人の意向や思いを汲みとり、望みに対応するようにしている	以前は帰宅願望の入居者が多く対応に苦慮していましたが、最近は少なくなり、職員も落ち着いて入居者の言葉を聴くことが出来るようになり意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人と家族に面談し、思いや要望、生活歴、趣味等聞き把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日関わっているので、お互いの事が解ってきて把握できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で、ケアカンファレンスをし、本人の望む生活ができるように介護計画を作成している	ケアマネが中心になって職員と一緒に計画を立てています。入居者の身体の状態に変化があった時は家族に報告し、家族と共に関わりを検討し、大きな変化があった時は計画を変更し現状に即した計画の作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々介護記録を記帳している。申し送りノートに特記事項を記入し、職員全員が把握できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせて、介護計画を作成し、計画に沿って支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方から、地域行事を教えてもらい、参加できる事はさせてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院のドクターに毎月往診に来てもらっている。定期的に検査したり、年1回健康診断を受け、健康維持に努めている	協力病院の医師の往診と定期検査のほか、年1回歯科検診を行い治療方針を決め、家族に説明し治療を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には、常用の看護師はいないが、協力病院の担当看護師さんにアドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に行き医師や看護師から情報をえている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に延命治療についてどのように思っておられるかある程度聞いている。終末期ケアをしていないので、入所時はその事を説明している	基本的に食事が摂れなくなった時に医師と家族に相談し、今後の方針を決めています。緊急時は医師に連絡し指示を仰ぎ、対応が困難な時は救急車にて病院に搬送しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療マニュアルを見ながら、緊急時の勉強をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回消防訓練、地震訓練をしている	火災訓練に消防署の職員から避難手順や注意事項の支持をもらい、又、今後、土砂災害の訓練も行っていく予定です。また運営推進会議で地域の方の協力を呼び掛けています。	実際に災害が起きた時は地域の方の協力は必要不可欠です。これからも運営推進会議で呼びかけを続けて協力体制を築いていかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ、態度など失礼のないように接するようにしている	入居者となじみの関係になるにつれ、つい言葉かけが乱雑になる場面もあり、課題として言葉遣いが失礼にならない様、お互いに注意するよう取り組んでいます。	対人関係の基本として人格の尊重とプライバシー確保を心掛け、その人らしい支援が行えるよう取り組んでいられる事を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の思いを聞いて自己決定できるように促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分の望む生活ができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選ぶ事ができる人は、自分で選択している 選ぶ事が出来ない人は職員が選び着せている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	モヤシの根とりやたまねぎの皮むき、ゆで卵の殻むき できる事は一緒にしている	入居者の出来ることをしてもらっていることがその人の自信に繋がっており、自分の仕事と捉えています。また、食事を楽しくする会話にも気を付けています。食事後は口腔ケアを行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個々に記録している 嚥下が困難な人には、ミキサー食でロミを付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声かけをしたり、いれ歯洗浄液につけたり、自分で出来ない人は職員が洗浄している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせてトイレ誘導、一連の動作介助オムツ対応など夜間、昼間により対応の仕方は異なるが、不快感なく生活ができるようにしている	入居者一人ひとりにあつた排泄介助を行っています。夜間は尿量が多い方は安眠の妨げにならないよう注意しながら、その都度パット、おむつを交換しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックしており、便秘の人には、水分を多めに飲んでもらったり、主治医指示の下剤を使用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	一人一人個浴で入浴してもらい、ゆっくりと楽しむ事ができるようにしている 声かけて拒否があつた場合は、無理に勧めず、様子を見ながら声をかけている	入居者の希望に応じて入浴の回数を増やしたり、入浴拒否のある方には時間を空けて声かけを行つて気持ち良く入浴出来るよう、個々に沿つた支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はソファに座つて談笑したり、ウトウトできるようにしている 夜間は個室で安心して休む事ができるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の処方した薬を職員が手渡しで本人に渡し飲んだのを確認 状態が変わつたときは主治医に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれできる事を一緒にしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに市のイベントに行つて楽しんだり、花見、お雛様、祭り見学、案山子祭り、紅葉等行つているが、家族、地域の人に支援を行っている。	家族が面会に来て入居者と一緒に出歩ることがあります。日中散歩に出かけると地域の方が声を掛けてくれ、日常的な外出支援に繋がっています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を個々に持ってもらっていない お金が無くなったと言われて、お互いに困るので家族に渡した		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳が遠くて電話での会話はできない 手紙を書く人も今はおられない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節感を出した飾りをしたり、利用者さんに季節に合った絵の貼り絵を個々にしてもらって飾っている	入居者と職員で作った貼り絵や季節ごとの外出時の写真などを居間の壁に装飾し、生活感や季節感を大切に空間づくりを心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に自分の席があり、そこで気のあった人同士で話したり、ソファに座ってくつろいだり、テレビを見たり去れている	」	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みの物を持ってきていただくように最初に言ってるので、安心できる居室になっている	本人が馴染みの物、また、家族が本人の気に入らそうなものを持ち込んで、居心地よく過ごせる居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺があり、安全に歩行できるようになっている。トイレも表示を大きく貼って分かり易くしている		